タイルカーペットの施工

施工手順

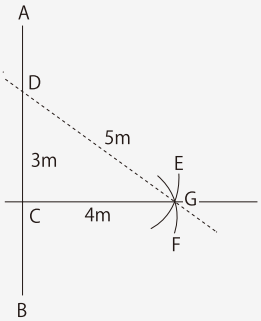
施工の基本的な流れ

1. 割付け
2. 墨出し
3. 接着剤の塗布
4. 敷込み
5. 階段の敷込み

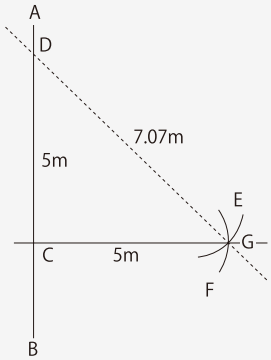
注意 CAUTION

直角(90°)の出し方

①まず割付けを基準にA-Bの線を出しA-Bの線上に点Cを求める。次にCよりA-B線上に3mの点Dを求め、Dを中心に5mの円E線を描く。さらにCより4mの円F線を描いてE線とF線の接点Gを求めCとGを結ぶ線を出すと直角(90°)になります。



②割付けで定めている位置にA-Bの線を出し、①と同様に点Cを求める。次にCよりA-B上に一定の長さ(この場合は5m)Dを求め、Dを中心とした一定の長さ×√2(この場合は5m×1.414=7.07m)の円E線を描く。続いてCより一定の長さ(この場合は5m)の円F線を描いてE線とF線の接点Gを求め、①と同じくCとGを結ぶ線が直角(90°)となります。



1 割付け

タイルカーペットは、できるだけカットしないで、
タイルカーペットの特長である互換性を十分生かした割付けをしてください。

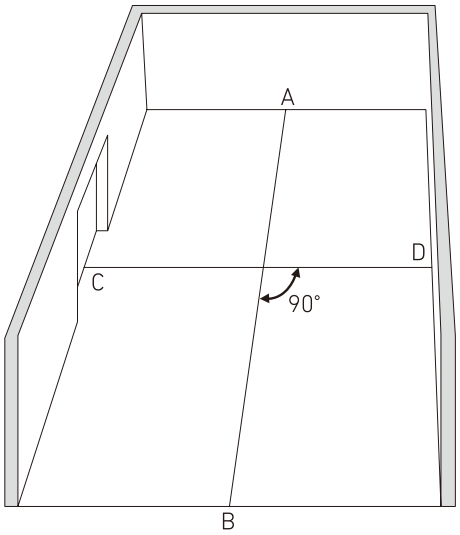
割付けのポイント

①歩行量の多い廊下や部屋の出入口などは特に交換しやすいように割付けしてください。
②壁面で極端に小さなカットが入らないようにしてください。どうしても小さいカットが出る場合は基本線をずらしてバランスを取ります。
③一般的にロスは四角形の部屋で実測数量のおよそ3%、変形の部屋では5%以上見込む必要があります。

2 墨出し

割付けで定めた位置にA-Bの線を出しさらにA-Bに対して
直角(90°)のC-D線を出して部屋を4区分します。
墨出し線は直角(90°)を正確に出さないと目地が狂いますのでご注意ください。

図②



③ 接着剤の塗布

- 接着剤はシーザーボンドを使用してください。
- 基準線から施工面にローラーやくし目コテで均一に接着剤を塗布してください。
- フリーアクセスフロアの場合、目地部分や凹部分に接着剤が入らないように注意してください。
- 接着剤の塗布量及び乾燥時間は下地の種類により若干異なりますが、次の数値を目安としてください。

吸水性下地	塗布量	100～150g/㎡	乾燥15分～20分
非吸水性下地	塗布量	80～120g/㎡	乾燥20分～25分

乾燥時間は下地、季節、空調等の条件でことなりますので一応の目安と考えてください。
接着剤は乾燥すると透明になりますので、目視で確認してください。
●接着剤が青白い状態でタイルカーペットを貼ると、ピールアップ性能が十分発揮されない場合がありますので、乾燥時間(オープンタイム)は十分とってください。
シーザーボンドは、オープンタイムを長く取り過ぎてもピールアップ性能には支障がなく、タイミング遅れにはなりません。
●接着剤の臭いが気になる場合は、換気を行ってください。

タイルカーペット敷込みに必要なツール

タイルカーペットの敷込みはコツをつかめば比較的簡単ですが、より確実な敷込みをするには必要なツールを取揃えておくことが大切な要素です。下記にツールの種類をご紹介いたしておりますので参考にしてください。

- 筆記用具
- メジャー
- チョークリール
- 定規
- カッター
- タガネ(ケレン棒)
- パーキリ
- ハンマー
- ドライバー
- 金ノコ
- ヤスリ
- バール
- ノンスリップ
- ビス
- 接着剤　シーザーボンド
- ニーキッカー

④ 敷込み

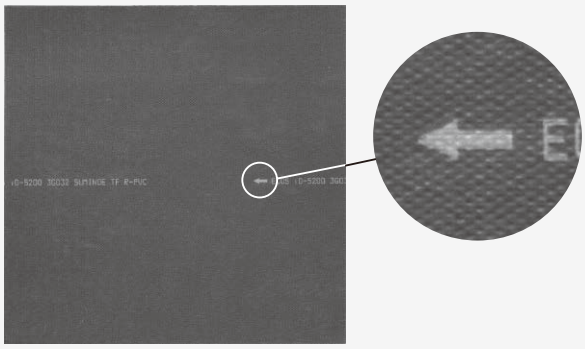
4-1

墨出し線の交わる所よりそれぞれラインに沿ってタイルカーペットを一列敷込みます。10枚並べて5mで3～5mmになるよう施行します。(10枚で3～5m/m緩めに施行します)

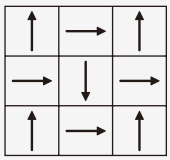
注意 CAUTION

パイルの方向と敷き方

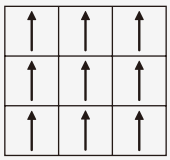
①タイルカーペットの裏面に矢印でパイルの方向を表示していますので確認してください。



②タイルカーペットの敷き方には「市松貼り」と「流し貼り」がありますが、スミノエタイルカーペットの敷込みは「市松貼り」を標準とします。
③裏面に印刷されている矢印を確認して、方向性を間違えないように施工する必要があります。
更にタイルカーペットは、同方向の流れでも、順目逆目により色が異なって見える為、矢印の頭は必ず一定方向に向けることが大切です。



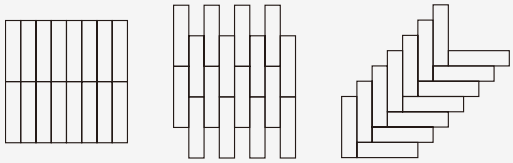
図④　市松貼り



図⑤　流し貼り

④OAフロアに施工する場合は、パネルの目地とタイルカーペットの目地が重ならないように施工します。(目安は、タイルカーペットの1/2～1/3程度ずらします。パネルの目地段差等の影響を受けてタイルカーペットに不具合が発生しないことを確認した上で施工してください)
⑤タイルカーペットは彩光の取りかたによって色や風合いが微妙に変化します。敷込む前に数枚のタイルカーペットを並べ、それぞれパイルの向きを替えながら置敷きして最も良い向きを定め設定してください。

参考：長方形タイプの施工例

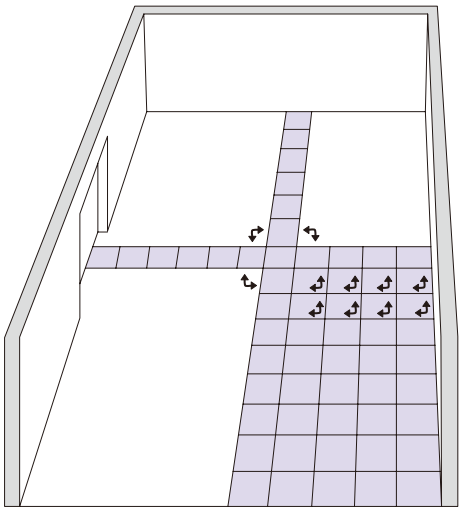


4-2 以降は次ページへ

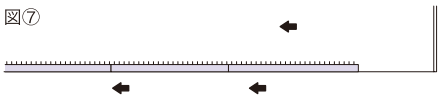
4-2

図⑥•図⑦のようにタイルカーペットを中央の基本線に向って敷込み、最後に壁ぎわでカットしておさめます。

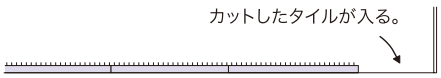
図⑥

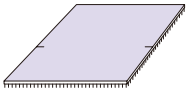


図⑦



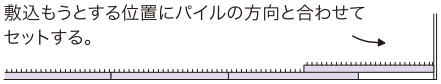
カットしたタイルが入る。

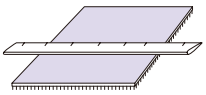




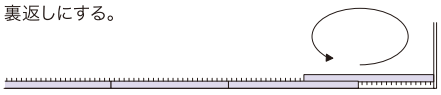
定規を当て、
カッターでカットする。
カットした部分は
かならず壁面に来ます。

敷込もうとする位置にパイルの方向と合わせてセットする。

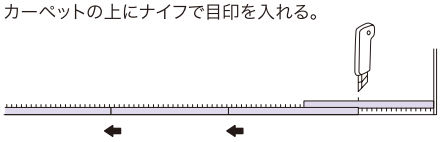




そのセットしたカーペットを手前に1回転させ裏返しにする。



最終のカーペットの端の位置を切断しようとするカーペットの上にナイフで目印を入れる。



カットした面から壁側になるように施工する。

注意 CAUTION

接着剤オープンタイム

接着剤が充分に乾燥してから貼り付けを開始します。
時間での判断は下地、環境季節、空調等の条件で異なるので一応の目安とお考え下さい。目視判断で、薄青色の接着剤が透明に変化した時点で貼り付けを開始します。早目に接着するとタイルカーペット裏面に接着剤が付着し、ピールアップ効果も落ちます。また、保管にも支障をきたします。この接着剤は、待ち時間を長く取り過ぎてもタイミング遅れにはなりません。

タイルカーペットの強接着

スロープ等でタイルカーペットのズレが想定される場合は、エポキシ樹脂系接着剤又はウレタン樹脂系接着剤で強接着します。強接着するとピールアップはできません。剥がす場合は、タイルカーペット及び下地の破壊を伴いますので、再使用はできません。

高目付カットタイルの注意点

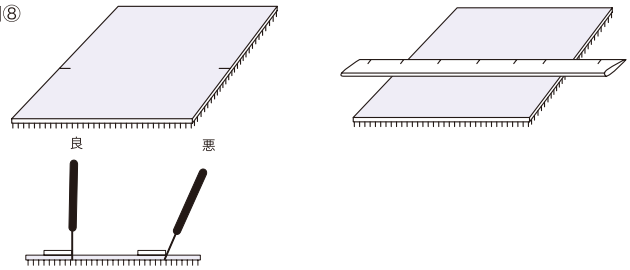
高目付カットタイルの施工では、裁断面のカットパイルが横にひろがり、目地がずれる場合があります。この時は、ニーキッカーで適度に詰めながら、目地ずれを修正してください。又、目地にパイルを巻き込まないように注意してください。

4-3

カットの要領

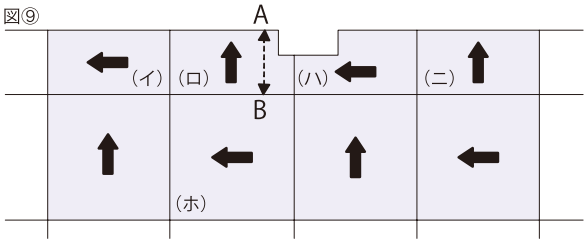
❶図⑧のようにカットの基本はタイルカーペットの裏面の両端に切筋を入れ、
2ヶ所の切筋に直定規を当てて裏から切ります。
カットの際カッターは、カーペットに対して正しい角度で使用してください。
（刃は常に良く切れるものをご使用ください。）

図⑧



❷図⑨のように壁ぎわに柱が出ている場合は次の3種類のカットを必要とします。

図⑨



（イ）のカット

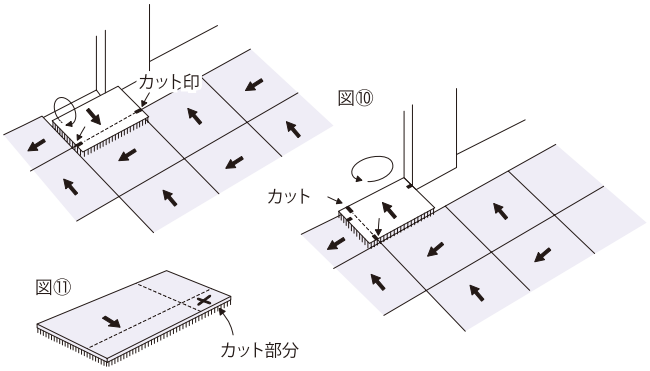
タイルカーペットを裏がえして壁に密着させて切筋を入れ、
点線の部分に直定規を当ててカットします。

（ロ）のカット

（イ）をはめ込んだ後、（イ）と同じ要領で巾落しのカットをしてください。
そして、図⑩の通り柱の側面にタイルカーペットを当てがい（ホ）との境目に
印を入れます。次にタイルカーペットの方向を180度かえて柱の側面に密着させ
（イ）との境目に印を入れれば図11のようにカットの部分が出てきます。

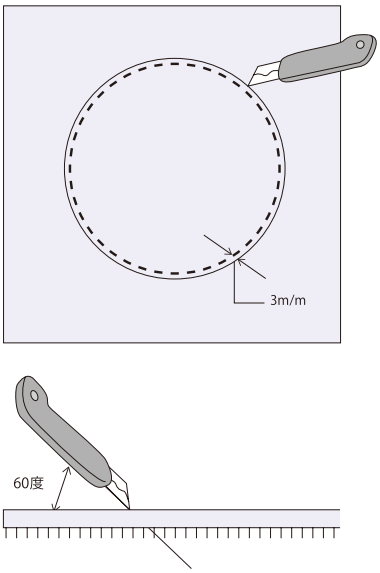
（ハ）のカット

（ロ）（ニ）のタイルカーペットをはめ込み、後は（ロ）のカットと同じ要領でカット部分
を出し、印に沿ってカットします。



❸丸い柱等のくりぬきは、タイルカーペットの裏側に実寸より3mm程度大きい円を
描き、その線に沿ってカッターを外側に60°ねかしてカットしてください。（図⑫）

図⑫



※カット上のご注意

ループタイプはパイルの先端までカッターを通して切り込んでください。
カットやタイプはバッキングの部分だけを切りこんでその後切りはなしてください。
必要以上にパイルをバッキングと同時にカットすることはさけてください。
特に“ループタイプ”はカッティングの際パイルが切れて
パッキングの中に入り込むことがあります。
このパイルは引っ張らないでハサミで同じ高さに切りそろえてください。

5 以降は次ページへ

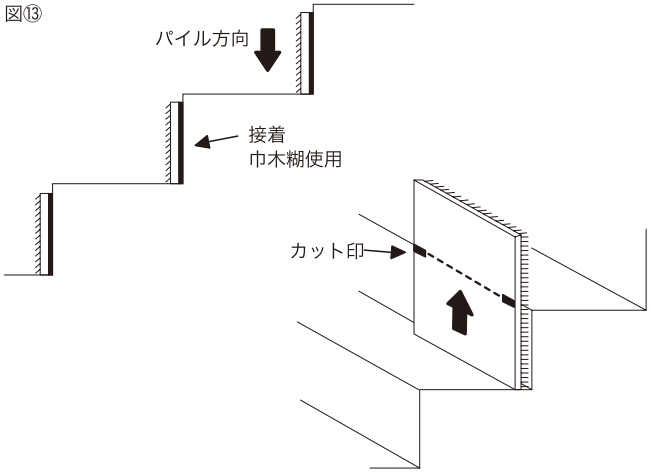
5 階段の敷込み

階段の施工方法にはノンスリップを使用する方法と巻込む方法がありますが、
ノンスリップを使用して敷込む方法をおすすめします。

5-1 立上り面の敷込み

まず、順目貼りを基本としタイルカーペットのパイル方向を上向きにして立上り面に沿って当てがい、踏み面より2mm～3mm短かくカットします。剥離の必要のない立上り面は巾木糊を使用しパイル方向を下向きに接着してください。

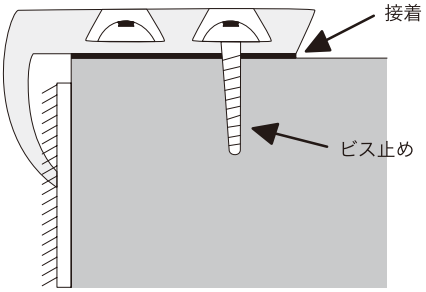
図⑬



5-2 ノンスリップの取付け

立上り面の敷込み完了の後ノンスリップを固定しなければなりませんが、ノンスリップの取付けは必ず接着剤とビスを併用してください。

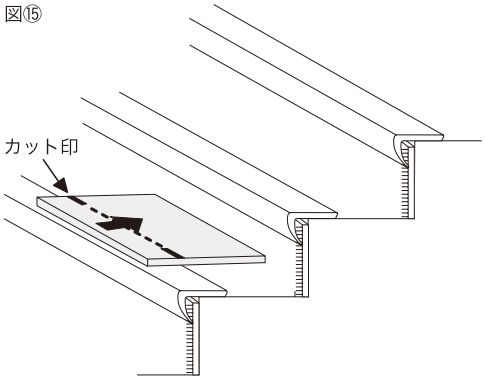
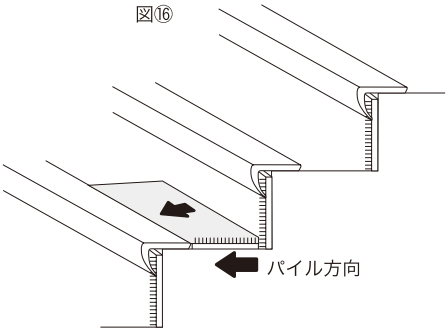
図⑭



5-3 踏み面の敷込み

踏み面ではタイルカーペットのパイルの方向を奥の方から手前に流して施工します。タイルカーペットを立上り面に当てて図⑮図⑯のように切筋を入れてカットし、パイルの方向を手前に向けて敷込みますが、この場合に機械で切断した部分が必ずノンスリップに当るようにしなければきれいにおさまりませんのでご注意ください。

図⑮



図⑯